

日本建築家協会(JIA)デザイン部会、講演会・対談シリーズ
「プロセスの意味とヴァナキュラー性、その4」
【パネルディスカッション: グローカル建築を考える】

河井敏明 田口知子 田島則行



情報化や地球化、価値観の多様化などのパラダイムシフトにおいて、建築デザインはどう変わっていくのか、何を視点にすればよいのか、をデザイン部会でディスカッションしています。

2011UIA 東京大会において、当部会では「グローバル建築を考える(ヴァナキュラーの変換としての現代建築)」をテーマに国際シンポジウムを企画しています。これに向け、今年度から、【プロセスの意味とヴァナキュラー性】をテーマに、建築家や専門家を招いて講演会・対談をしています。その第四回として、3人の建築家を招いてパネルディスカッションをします。彼らは当方が継続的に実施している海外での建築都市ワークショップの講師として協力して頂いた方々で、地域性、土着性、固有性、アイデンティティなどを手がかりに様々な建築を展開しているアクティブな建築家達です。世界中どこに行っても同じ建築、同じ街並が形成されている問題に対し、ヴァナキュラーの意味を広義に捉え、必要とされるグローバル建築とは何なのか、をディスカッションします。

(デザイン部会長: 連健夫)



■河井敏明(カワイシアキ、建築家・一級建築士事務所河井事務所主宰、京都大学非常勤講師): 京都大学卒業、同大学院修了後、設計活動開始、94~95年AAスクール。95年中村潔、植南草一郎、馬場徹らと「建築少年」共同設立。99年河井事務所設立、作品に平安座島のロングハウス(2008年設備環境デザイン賞優秀賞)、上京のデイケアセンター、春日野道の家、四条木製ビル(2009年京都デザイン賞大賞)など、インドWS2002年に講師として参加。



■田口知子(タグチトモコ、建築家)、東京大学卒業の後、長谷川逸子・建築計画工房に勤務、1999年K&Tアーキテツツ設立、2000年に田口知子建築設計事務所に改名、現在に至る。設計の傍ら日本大学、東京理科大学で非常勤講師を務める。作品に武蔵小山アパートメント(日本建築家協会優秀建築選 2008)、セラタウンかさほらアメニティーホール(DANTO タイルデザインコンテスト最優秀賞)、CIRCURATION HOUSE(建築士会住宅セレクション優秀賞)など。フィリピンWS2008年に講師として参加



■田島則行(タジマリユキ、建築家・アーバンリスト)1964年東京都生まれ。工学院大学建築学科卒業、AAスクール大学院修了。93年に独立。96年には東京の三田にオープンスタジオNOPE設立。99年よりテレデザインを設立。c-MA3がJCDデザイン優秀賞受賞(05年)、日本建築家協会優秀建築選2005選出(06年)。REISMが第28回INAXデザインコンペ入選(07年)。Esq 広尾がグッドデザイン賞受賞、日本建築家協会優秀建築選2008選定(08年)。設計デザイン活動の一方で、東京チャンネルプロジェクトや日本橋・神田エリアにおけるCET等多岐にわたり活動。マレーシアシンガポールWS1998年に講師として参加

□ コメンテーター: 渡邊研司氏(東海大学准教授)

■日時: 12月6日(月)18:30~20:30

■場所: 日本建築家協会 JIA館1F建築家クラブ
 (渋谷区神宮前2-3-18) TEL:03-3408-8291

■参加費: 1000円(学生500円)飲食物代等

■申込不要、CPD申請中

■問合せ: 連健夫 takeo@muraji.jp

